



山梨県教育庁義務教育課



# 目 次

あいさつ	1
国語	2
社会	4
算数	6
理科	8
生活	10
音楽	12
図画工作	14
家庭	16
体育	18
外国語活動	20
道徳	22
総合的な学習の時間	24
特別活動	26
評価資料について	28
教育課程研究委員	29



新学習指導要領に変わるけれど、どのような点に気を付けたら……

各教科等の評価のポイントをまとめました。また、QRコードから事例を見ることができます。



## 義務教育課 HP

<http://www.ypec.ed.jp/gimukyo/>

### 【文部科学省資料】

- ・ 文部科学省の関係資料等へのリンクをまとめています。
- ex. 「学習評価の在り方ハンドブック」、学習指導要領、通知文等

### 【県教委作成資料】

- ・ 山梨県教委作成資料等がダウンロードできます。
- ex. 「教育課程指導資料」実践事例、指導重点説明会資料等

学習評価が大きく変わります。HPから情報を得ることができますので、活用してください。



# あいさつ

平成31年3月の「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）」では、「『主体的・対話的で深い学び』の視点からの授業改善を通して各教科等における資質・能力を確実に育成する上で、学習評価は重要な役割を担っている」と示されています。

学校における働き方改革が喫緊の課題となっていることも踏まえ、次の基本的な考え方に立って、学習評価を真に意味のあるものとすることが重要となってきます。

- ① 児童生徒の学習改善につながるものにしていくこと
- ② 教師の指導改善につながるものにしていくこと
- ③ これまで慣行として行われてきたことでも、必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと

指導と評価の一体化を図るためには、児童生徒一人一人の学習の成立を促すための評価という視点を一層重視し、教師が自らの指導のねらいに応じて、授業中での児童生徒の学びを振り返り、学習や指導の改善に生かしていくというサイクルを確立することが大切になります。つまり、学習評価の結果を、児童生徒の学習の改善に生かし、そして、主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善にも生かすことで、児童生徒一人一人の学習が成立します。

山梨県教育委員会では、学習指導要領に基づいた教育課程の一層の充実を図るため、毎年、教育課程研究委員会を組織し、学習指導の工夫・改善や適切な評価の在り方等について研究し、その成果の普及を図っています。本年度は、新学習指導要領の全面実施を迎える小学校に焦点を当て、「主体的・対話的で深い学び」の実現を通して、児童生徒の資質・能力を育むことを目指し、各教科等で学習評価の改善について研究を進めました。

この研究が、学習評価への理解を促進し、目の前の子供たちの姿を踏まえた不断の授業改善につながるものと考えます。

また、山梨県教育委員会では、冊子とともにホームページ版の作成も行い、具体的な学習指導の事例についても紹介しています。これらの資料が広く活用され、本県の子供たちが未来の創り手となるための資質・能力を育てていくための取組が、各校において積極的に推進されることを期待します。

令和2年2月

山梨県教育庁義務教育課長 中込 司

# 言語活動を工夫し 児童の「考えの変容」を見取る

## POINT 1 児童が身に付ける「国語の力（資質・能力）」を絞る

授業を通して児童に身に付けさせたい国語科の資質・能力は、教師が責任をもって設定することが求められています。教科書の指導書等では、指導の多様性を担保するために多くの指導事項が設定されているので注意が必要です。効果的かつ効率的な評価にしましょう。

- ① 学習指導要領解説を基に指導事項の確認  
(系統性や学習用語なども)
- ② 教科書教材の教材分析を踏まえて指導事項の焦点化
- ③ 児童の実態に合わせた評価規準の設定



## POINT 2 児童が「考えの変容」を生み出す言語活動を設定する

一問一答のやりとりやクイズ形式の授業では、一時の楽しさはあるかもしれませんが、しかし、児童の思考力・判断力・表現力などを鍛えることができるでしょうか。試行錯誤を伴う適切な言語活動を設定することで、児童の「考えの変容」が生まれます。

- ① 児童の実態に合わせた学習課題のアレンジ  
日常生活や教材研究、学習履歴を踏まえ、目の前の児童に合った学習課題にアレンジしましょう。
- ② 児童の「気づき」が生かされるしかけの工夫  
安易なクイズやゲームにより「浅い学び」で終わってしまう授業が散見されます。児童自らが、学習課題や解決に向ける方法などについて気付くしかけを工夫して、教師も授業を楽しみましょう。
- ③ 個人で考えたり、友達と考えたりする場の設定



発言力のある児童だけでなく、児童一人一人が充実感を味わうために、様々な「対話」の場を設定しましょう。

## POINT 3 児童が「自分の考え」を書きたくなるように工夫する

児童に「学習を通して、こんなことが分かるようになった」という自覚をもたせるために、学習の経緯を記録させておくと役に立ちます。

書くことが難しい低学年・中学年については、「めあて」に向かって自分なりに様々な工夫を行おうとしているかを自己評価するなどの、児童の学習状況を適切に把握するための学習評価の工夫が求められます。



2学年

# 「アフレコに 挑戦しよう」

国語科実践事例

教材：「お手紙」（光村図書2年）



教材文の特質を踏まえて、児童の問いを引き出す。

## 評価規準

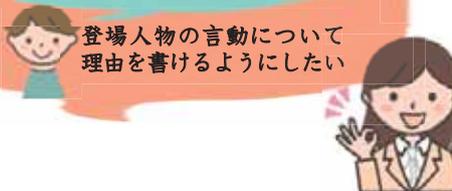
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読しようとしている。(C1)キ ②文の中における主語と述語の関係に気付いている。(C1)カ	①「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C工) ②「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(Cオ)	①すすんで、根拠になる文を探し、学習の見通しをもって、音読しようとしている。

### POINT1 「自分の考え」には、理由を添えさせる

児童に身に付けさせたい指導事項をC工「自分の考えの形成」とした。登場人物である、がまくんとかえるくんの言動についての考えを、理由を添えて述べさせたい。その際、『〇〇〇』と書いてあって……』という一言を付け加えることで読みが深まるきっかけとなる。

かえるくんが、手紙を書いたのは、〇〇〇からだと思います。

登場人物の言動について理由を書けるようにしたい



### POINT2 音読の録音を通して、登場人物の気持ちに近付ける

画像を見ながら、状況を想像して音読するという言語活動を設定した。

#### ①がまくんとかえるくんの言動を課題にする

「かえるくんはなぜ手紙を書いたのか」、「手紙を書いたことを、なぜがまくんに話してしまったのか」、「がまくんが、本当にほしかったものは何なのか」などの課題を設定した。自分の考えを交流する際、理由と共に述べることで、様々な考えが広がった。



#### ②音読をタブレットPCを用いて録音する

画像に合わせて、音読することを通して、登場人物の心情に近づく。

#### ③録音する前に自分の考えを述べる

さまざまな「考え」があり、さまざまな述べ方があることに触れる大切な機会になった。

### POINT3 ポイントを踏まえて学習感想を書かせる

#### ・考えを記述でまとめる

第一次の終了時などに、簡単な学習感想を記述させ、書きためていった。

#### ・「考えの変化」を大切にする

自分の考えが、「どこで」「誰（何）の言葉によって」「どう変わった（変わらなかった）」のポイントを意識して書く。



# 問題解決的な学習の流れの中で 児童が表現したことを基に思考を評価する

## POINT 1 学習の流れをイメージして「指導と評価の計画」を作成する

単元の目標や評価規準を基にして、いつ、どのような方法で、児童の学習状況を評価するのかといった計画を立てるようにしましょう。(※R1.8月 新教育課程説明会資料等を参考にする。)

	ねらい	○主な学習活動・内容	□資料	評価方法と【評価規準】
つかむ	学習問題の解決に向けて、予想や学習計画を立てることができるようにする。 [第2時]	○学習問題の解決に向けて予想を立てる。 ・大名の力を抑えるような政策をしたのではないか。 ・外国の脅威をとりのぞいたのではないか。 ○予想を基に学習計画を立てる。	□ノート □学習シート (学習計画表)	「学習問題の解決に向けた予想や学習計画を立て、解決の見通しをもっているか」を評価する。 ・発言内容・ノートや学習シートの記述内容 【態-①】
まとめる	調べたことや考えたことを基に、学習問題について文や図にまとめることができるようにする。 [第6時]	○学習問題について調べたことや考えたことに基づいて、幕府の政策と人々の暮らしや社会の様子などについて文や図にまとめる。 ・学習問題に対するまとめ	□これまでに活用してきた資料 □ノート □学習シート	「江戸幕府が参勤交代や鎖国など様々な政策を行ったこと、それらが武士による政治の安定につながったことを理解しているか」を評価する。 ・ノートや学習シートの記述内容 【知-②】

予想や学習計画を立てる場面だから「学習問題の追究・解決に向けて見通しをもとうとしているか」【態-①】を評価しよう!!

調べたことなど文などにまとめて、学習問題について考えをまとめる場面だから、「武士の政治の安定について理解しているか」【知-②】を評価することにしよう!!  
単元目標の実現状況を見取りやすい場面だから、評価したことを記録に残すことにしよう!!

「指導と評価の計画」を作成する際には、特に評価したことを記録に残す場面を予め計画の中に設定しておくなど、効率的・効果的な学習評価を行うことができるような工夫をすることが考えられます。「指導と評価の計画」の例では、評価したことを記録に残す場面を網掛けで明示しています。

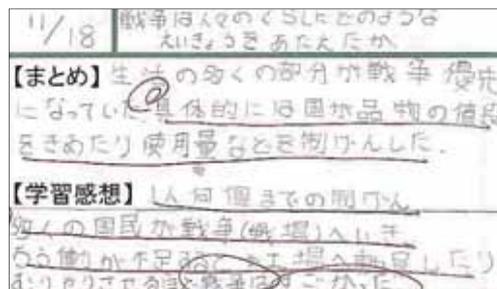
指導と評価の計画では、単元の目標や評価規準を基に、**ねらい・学習活動と評価**が一致しているか確認します。



## POINT 2 考えたことなどを児童が文章で表現する場面で評価する

評価資料として、図表や地図、文章など、児童が表現したものを収集することが考えられます。例えば、1回1回の授業や単元の終末に、学習問題や学習課題のまとめを文章で表現する場面を設け、児童が調べて分かったことや、調べたことを基に考えて分かったことなどを書けるようにし、それを評価規準に照らし合わせて評価することが考えられます。まとめを的確に行うためには、児童が学習問題などを自分の問題として捉えていることが大切ですから、既習の内容や身近な社会的事象から児童の気づきや疑問を引き出し、それらを基に学習問題などを設定するといった工夫をしましょう。

評価の結果、「努力を要する」(C)と判断した児童に対しては、学習内容を確認したり整理したりする機会を設ける、授業の中での声かけの回数を増やすといった支援を行うことが大切です。



▲学習課題のまとめと学習感想をそれぞれ書くことができるようにするために、学習シートを活用した事例です。

# 6学年

## 「幕府の政治と人々の暮らし」

社会科実践事例

単元名：幕府の政治と人々の暮らし

(内容(2)ーア(キ)(サ), イ(ア))



いつ、どのような方法で評価するのかを明らかにする。

### POINT1 学習の流れをイメージして「指導と評価の計画」を作成する

第2時

**ねらい** 学習問題の解決に向けて、予想や学習計画を立てることができるようにする。

**学習課題** 学習問題について予想を立てよう。

**主な学習活動**

- 学習問題の解決に向けて予想を立てる。
- 学習問題や予想を基にして、学習計画を立てる。

#### 【学習評価の実際】

【A児の記入内容の一部】

- ・大名の視点  
幕府が、戦をしない(できない)しくみをつくったと思う。
- ・百姓(人々)の視点  
幕府が、刀狩りのようなことをして反乱を防いだと思う。
- ・外国との関わり  
外国から進んだ技術を取り入れた。(キリスト教を認めたのか調べたい。)

予想や学習計画を立てる場面について「学習問題の解決に向けた予想や学習計画を立て、解決の見通しをもっているか」を評価した。

A児は、前単元までの学習で用いた視点(立場)や学習内容を基に、江戸幕府が長く続いた理由を予想していた。また、予想を基に単元の学習を通して調べたり考えたりすることを計画していた。こうした姿から、単元の学習を十分見通していると判断し「十分満足できる」状況(A)とした。

スムーズに予想を立てられない児童には、学習問題を設定したときに用いた見方・考え方を示すといった工夫が考えられます。



### POINT2 考えたことなどを見童が文章で表現する場面を設定する

第4時

**ねらい** 資料から武家諸法度や参勤交代などの制度について調べ、幕府の大名支配のしくみを理解することができる。

**学習課題** 幕府はどのようにして大名を従えたのだろう。

**主な学習活動**

- 既習の内容(大名の配置)を振り返る。
- 資料から武家諸法度や参勤交代の制度について調べる。
- 調べたことを基にして、江戸幕府が大名を支配したしくみをまとめる。

#### 【学習評価の実際】

【K児の記入内容】

幕府は、幕府の領地を増やしたり大名の配置を工夫したりし、さらに参勤交代を定めることで大名の力をおさえ従えていた。

【M児の記入内容】

幕府の大名に対するたくらみが分かった。参勤交代など厳しいことをすると大名がかわいそうだったと思った。

学習課題のまとめを文章で表現する場面を設定し、「必要な情報を集め、読み取り、武家諸法度や鎖国などの幕府の政策について理解しているか」を評価した。

K児は、既習の内容や本時で調べたことなどを踏まえて幕府の政策の様子を記述していることから「おおむね満足できる」状況(B)と判断した。M児は、調べたことが書かれておらず、「かわいそう」といった根拠に基づかない記述も見られることから「努力を要する」状況(C)と判断した。M児には、参勤交代の様子や大名への影響を質問するなど、前時までの知識の整理を促すようにした。

児童が「学習課題に対するまとめ」を意識できるよう、学習課題は黒板などに明示しましょう。

また、学習問題を常に確認できるようにしておくことで、児童が単元のゴール(学習問題の解決)を見通しながら学習できるようにしましょう。



評価したことを指導に生かすことは、単元の全ての時間において大切です。



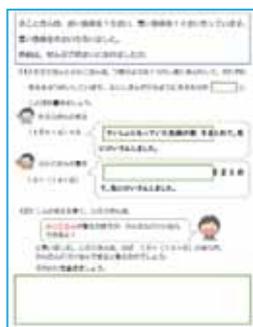
# 資質・能力を「児童の姿」で 具体的に捉え、指導と評価に生かす

## POINT 1 数学的活動における「児童の姿」を具体的に想像する

資質・能力が身に付いた児童の姿とはどのような姿でしょうか。授業を構想するに当たっては、問題解決過程において「児童がどのように思考したり表現したりすることを目指しているか」を、具体的に想像することが大切です。それを基に授業で取り入れたい数学的活動を構想していきます。

### 児童の姿を具体的に想像する

#### 適用問題や評価問題



「学びのふりかえり」も参考になります。



焦点化

具体的に！

- ✔ どの資質・能力を身に付けた児童を目指したいか？
- ✔ この問題に児童はどう解答するかな？
- ✔ こんな解答ができる力を付けさせたい。

### 授業中の数学的活動を具体的に構想する



教科書のこの問題を扱う時間には、児童にじっくり考えさせたり、考えを書かせたりする活動に特に力を入れよう！

授業中、こんな児童の言葉を引き出すには、どんな活動や問いが必要だろう…

具体的に！

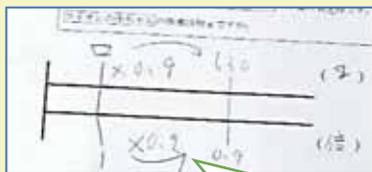
「あれ？今までのやり方じゃできないよ」  
「でも、〇〇を使えばできるかもしれない」  
「結局、小数のときと同じだったんだね」  
「10のまとまりって便利だよ」  
「この式は、数直線のこの矢印と同じ意味だよ」



## POINT 2 「児童の姿」を基に指導改善につなげる場面を設定する

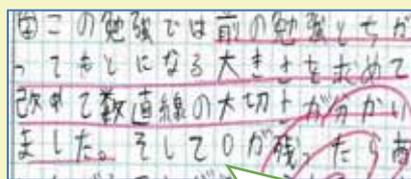
単元の指導と評価の計画を立てる段階から、「指導に生かす評価」と「記録に残す評価」の評価場面を区別して設定し、計画的にタイミングや方法を考えておくことが大切です。

### 授業後半での適用問題



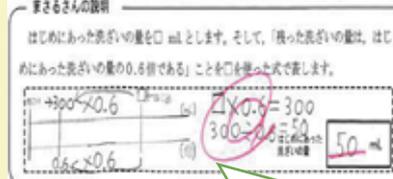
純小数になったとき、数直線に表すことへのつまずきが見られる児童が多いから、次時では、そこをもう一度問おう。

### 学習感想



この児童は、前時との違いに気付いていたな。数直線の活用に慣れてきて、数直線に有用性を感じていると見取ることができるかな。

### 単元末評価問題



この児童は、数量の関係を数直線に表すことで、問題解決する力が付いてきた。計算のミスをなくするための指導がさらに必要だ。

### 「指導に生かす評価」～教師の指導改善へ～

「努力を要する」状況にある児童を把握し、その後の指導改善に生かすための評価。児童の姿から学習状況を把握し指導計画を修正することも大切です。

### 「記録に残す評価」～総括の資料に～

各観点の学習状況が把握できる段階で、総括の資料にするために学級全員の児童の学習状況を記録に残す場面を精選して設定しておきます。

5学年

# 「小数のわり算」

10 / 15時間

算数科実践事例

単元名：小数のわり算を考えよう

(東京書籍5年)



次時への指導改善につなげるために児童の実態をつかむことのできる適用問題の活用を工夫する。

評価規準 (一部抜粋)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①小数の除法について、整数の場合と同じ関係や性質が成り立つことを理解している。	①除数が小数である場合まで数の範囲を広げて、除法の意味を捉え直している。 ②小数の除法について、小数の意味や表現を基にしたり、除法に成り立つ性質を用いたりして、計算の仕方を多面的に考えている。	①学習したことを基に、小数の除法の計算の仕方を考えたり、計算の仕方を振り返り多面的に考え検討したりしようとしている。

## POINT1 児童の実態を基に、数直線の活用を意識した単元計画を立てる

児童の実態を捉えた上で、「小数のわり算」の単元末評価問題の解説に示されている「口を使った式で表すこと」や「問題場面を数直線に表すこと」「小数を含んだ式で口を求めるための演算が困難である場合には整数で考えること」などを指導計画に取り入れた。

本時において、児童から引き出したい表現を具体的に想像して、授業を構想した。

「学びの振り返り」の単元末評価問題 (小数のかけ算) でのつまづき

「今日の問題は倍のところが□になっているよ」「整数で考えた時と同じように式を立てられるかな・・・」「数直線から、まずかけ算の式を作ると考えやすい!」

## POINT2 実態把握を意識した適用問題を用意し、次時からの指導改善に生かす

**共通の問題場面** 生まれたばかりの犬がいます。犬の赤ちゃんの体重をはかったら、630gありました。それは、□の体重の□倍です。□の体重は何gですか。

- 導入 (1)犬の赤ちゃんの体重が、鳥の赤ちゃんの体重の 3 倍
- 展開 (2)犬の赤ちゃんの体重が、ねこの赤ちゃんの体重の 1.8 倍
- 適用問題 (3)犬の赤ちゃんの体重が、ライオンの赤ちゃんの体重の 0.9 倍



### 「指導に生かす評価」

授業の終末では、同じ問題場面を使い適用問題に取り組んだ。純小数である0.9の場合において、児童の学習状況を評価することとした。ワークシートに、数直線とともに、口を使った乗法の式と口を求める除法の式を書かせることで、児童が問題の数量関係を捉えることができているかを見取った。

**適用問題** 体重は何gですか。

ノート分析を通して、1と□の対応は捉えているが、倍の数直線上で「0.9」を「1」の右側に書いている状況を見取ることができた。

➔

指導改善

**次時のワークシート**

倍の数直線での位置関係や小数のかけ算とわり算とを比較して気付いたことを記述している。

指導計画を修正し、次時の導入で「何を1とみたのか」を確認した上で、倍の数値の大小関係や、商の大小を確認する指導を行った。本時の評価を通して、教師の指導改善や児童の学習改善へつなげることができた。

# 科学的な問題解決を通して 児童の変容を評価する

## POINT 1 目標を達成した児童の姿から指導と評価の計画を考える

理科では、自然の事物・現象に繰り返し親しみ、そこから問題を見いだしたり解決したりする活動を意図的に設定することが大切です。問題解決の活動を通して、児童は既にもっている考えを少しずつ科学的なものに変容させていきます。単元の目標を達成した児童の姿を想定し、働かせる見方・考え方、単元の系統性や他教科とのつながり、学習内容を日常生活に当てはめて生かす活動等を基に、指導計画や評価する場面、方法を構想しましょう。

4年：金属、水、空気と温度  
6年：燃焼の仕組み  
中学：物資のすがた  
いろんな内容に  
つながる単元なんだな

「粒子」領域の学習だから…  
主に質的・実体的な見方が  
働くような活動を考えよう



4年  
空気と水の性質  
(教科書＋指導要領解説)

空気と水の性質を関係  
付けることが大切だな

単元末には、学習を生かして、みんなが知っている  
水鉄砲と空気鉄砲で遊ぶ活動を取り入れよう

## POINT 2 児童の記述から科学的な考え方への変容を見取る

児童の考えがより科学的なものへと変容したかは、主に発言やワークシート等への記述から見取ります。問題解決のそれぞれの過程において考えを表出させるためには、児童なりに根拠のある予想や仮説を立て、見通しをもつことが大切です。そうすることで観察や実験の目的が明確になり、また、結果を基に予想や仮説について個人や集団で考えることで考察の内容も充実します。解決したい問題を児童が主体的に見いだす導入を設定し、既習の内容や生活経験を学習に関連付けることで、児童なりの根拠を引き出しましょう。

体育のとき、  
よく弾むボールと  
弾まないボールが  
あったな。  
導入に生かせるかな。



### 理科の問題解決の過程

- 1 自然の事物・現象への働きかけ なぜ？ どうして？ 本当かな？
- 2 問題の見だし
- 3 予想・仮説の設定 児童なりの根拠
- 4 検証計画の立案
- 5 観察・実験 どんな実験をすれば 確かめられるかな？
- 6 結果の整理
- 7 考察 予想は正しかったかな？ みんなの考えはどうかな？
- 8 結論の導出 なるほど！ 説明できるぞ！



## POINT 3 振り返りを指導改善につなげる

振り返る活動は、児童自身が、身に付けた資質・能力や自分の変容を実感する場面ですが、「何が分かったのか」「考えはどのように変化したか」等の視点を与えて記述させることで、教師は授業を省察し指導改善につなげることができます。児童が今日の目標を達成できているかを適切に見取り、次時の活動を構想したり、単元構成を見直したりして、指導と評価の一体化を図りましょう。

### A児の振り返り ①

今日の学習で分かったこと  
注射器に空気を閉じこめてピストンをおすと、体積が小さくなるのがわかった。でも、そっとおしたときと強くおしたときでは、ピストンのもどり方がちがった。強くおすと元の位置までもどらなかった。

空気は押し縮められることは理解できているが、手ごたえについてふれていない。また、実験が正確にできていたか確認する必要がある。次時の導入にA児の振り返りを取り入れ、実験方法についてみんなに考えさせる場面を設定。

### A児の振り返り ②

今日の学習で分かったこと  
空気とちがって水は体積が小さくならなかった。手ごたえは空気より大きかった。空気でももう一度実験してみたら、いろいろなおし方をして、ピストンが止まるまで見ていたら、いつもピストンは元のめもりまでもどった。

# 4 学年

## 「空気と水の性質」

理科実践事例

教材：「とじこめた空気や水」（大日本図書 4 年）



共通の生活経験を、科学的な視点で捉え直す。

### 評価規準（一部抜粋）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①閉じ込めた空気を圧すと、体積は小さくなるが、押し返す力は大きくなることを理解している。 ②閉じ込めた空気は押し縮められるが、水は押し縮められないことを理解している。	①空気と水の性質について見いだした問題について、既習の内容や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説を発想し、表現するなどして問題解決している。	①空気と水の性質についての物事・現象に進んで関わり、他者と関わりながら問題解決しようとしている。 ②空気と水の性質について学んだことを学習や生活に生かそうとしている。

### POINT1 単元末に、学習内容を使って児童が創意工夫する活動を設定する

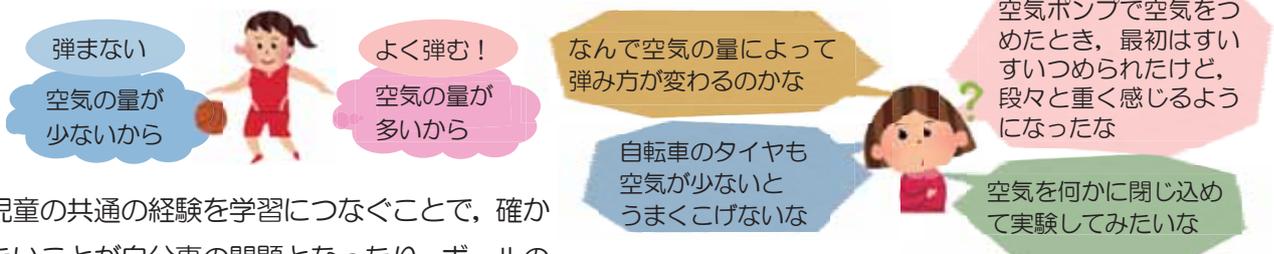
単元末に空気鉄砲や水鉄砲で遊ぶ活動を設定した。そのため、空気と水の相違点や共通点に目が向くよう、これらを比較させながら学習を進めた。「玉を遠くまで飛ばす」ため、友達と相談しながら試行錯誤する様子が見られた。学習後の振り返りには、学習した性質を活用した記述が見られ、主体的に学習に取り組む態度の評価につながった。

B児の振り返り

水でっぼうは水がとおくまでとんでいく。空気でっぼうは、空気ははいているから、上のスポンジがいきおいよくとんだ。玉と玉の間をたくさんあけて、空気だけつめたときがいちばん遠くまで玉がとんだ。

### POINT2 導入に共通の経験を取り入れ、根拠のある予想を立てさせる

体育の学習での共通の経験：空気の量によってボールの弾み方が異なる



児童の共通の経験を学習につなぐことで、確かめたいことが自分事の問題となったり、ボールの弾み方等の経験が児童なりの根拠となって予想に表れたりした。また、予想と実験結果を比較して考察させたことで、ボールの弾み方と実験での空気の手ごたえが似ていることに気付いた児童も見られた。自分なりの根拠を明確にさせることで、問題解決の過程で話せることや書けることが充実した。

### POINT3 毎時間の児童の振り返りを次時の指導に生かす

毎時間、今日の学習でいちばん大切だと思ったことを書かせ、コメントを返した。記述内容によって、次時の計画を修正するか、個別に指導をするかを判断し、振り返りを指導に生かすことができた。本単元では、どの児童も授業で学習した言葉を使って記述できるようになっていったことが分かった。

1 時間目

今日は、空気はとじこめられて、とじこめたふくろなどをおすと、おし返されることがわかりました。空気をふくろに入れると、へこんだりもしました。

3 時間目

空気とひかくすると、水は、体積がちいさくなりませんでした。手ごたえは、空気よりとても強かったです。

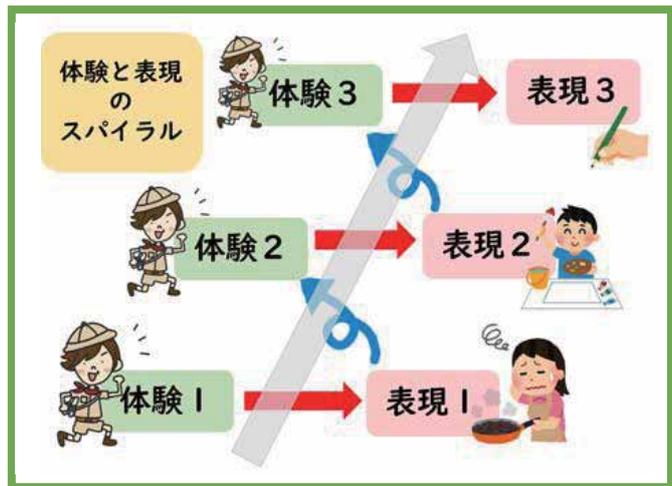
## 具体的な活動の場を想定し 一人一人を多面的に見取る



### POINT 1 3つの観点から、児童のゴールを想像する

生活科では、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、直接体験で得た気づきを表現することにより、その質を高めながら、自立し生活を豊かにしていく資質・能力を育成することを目指しています。評価は、結果よりも結果に至るまでの過程を重視します。

単元を通して、児童にどのような力を付けたいのか、3つの観点から「児童のゴールの姿」を想像し、児童の実態に合わせた学習計画を立てていきましょう。



#### ゴール

「みんなで朝顔の花をきれいに咲かせよう」  
→「早く芽が出るように、水をあげよう」  
→「どのくらい？ペットボトル2本分？」  
→「あげたら土がぐちゃぐちゃになった！」  
→「水をへらしてみようか？」  
→「芽が出た！水をへらしたからだね」



教師は、児童の興味関心を踏まえ、児童の活動予想を立て、児童の活動が豊かなものになるよう、学習対象との適切な出会いの場を準備しておくことや、思いや願いがさらに膨らむような学習活動を展開していくことが重要となってきます。

◇「できた」「できない」だけではない！教師は一人一人違うそれぞれの伸びを大切に見取る◇

様々な立場からの評価資料を収集することで、児童の姿を多面的に評価することが可能となります。

- ①教師による行動観察や作品・発言分析等(授業時間外も含む)、
- ②児童の自己評価や児童相互の評価、
- ③ゲストティーチャーや学習をサポートする人、
- ④家庭や地域の人からの情報等

### POINT 2 児童の学びへの興味を引き出す

低学年においては、児童一人一人の生活環境の違いから、対象に対しての知識量に個人差があります。クラス全体で意見を出し合うことで、対象に対するイメージが膨らみ、自分が知らなかったことも、知っている児童の考えを言語化し、共有していくことで、クラスの共通理解を図ることができます。児童が現在どのくらい対象について知っているかを確認でき、児童にこれからの学習の見通しを持たせることもできる効果的な方法の一つにウェビングがあります。児童は五感を働かせ、対象につ



「あめ」がテーマのウェビング

いて言語化し、教師はそれをつないでいくことで、児童の「やってみたい」があふれてきます。

# 1 学年

## 「みんなであそぼう はるなつあきふゆ」

生活科実践事例

単元名：「みんなであそぼう はるなつあきふゆ」

(光村図書 1 年)

「教師の問いかけ」により、児童の次の活動につなげる。



評価規準（一部抜粋）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
身近な自然を観察したり、自然物を利用して遊んだりする活動を通して、季節の変化に気付いている。	季節の変化や特徴をたしかめながら、身近な自然を楽しんでいる。	季節の変化や自然の不思議さ、自然の中で遊ぶ楽しさ、そして、それらと自分のかかわろうとしている。

雨が降ると地面の土がドロドロするね。

バケツと缶に落ちる雨の音を比べてみよう！

〇〇ちゃんが水たまりをつなげていた。私も一緒にやってみよう！

### POINT1 一人一人を多面的に見取る

生活科は児童の自主的な活動が中心になっているため、最終的に「みんな活動は出来ている」という活動自体の評価になってしまい、学びの連続性や指導の系統性が曖昧になっていることが散見される。

年間を通して長期にわたる単元を評価するためには、3つの観点で見取っていくことが大事である。

#### ①分割→統合

小单元における評価規準に基づいて評価し、記録する。その小单元ごとの記録を統合することで、一つの単元の評価とする。

※例 (春の小单元の評価) + (夏の小单元の評価) + (秋の小单元の評価) + (冬の小单元) = 1 単元の評価

#### ②単元を構成する小单元ごとの評価に重み付けをして、それを集計していく方法。

学習活動やねらいを踏まえ、ここで付けたい資質・能力に重きを置いて、評価をする。

教師の問いかけをきっかけに、対話が生まれ、児童が表現していなかったことを出せるようになる。教師は一人一人違う伸びをここから見取る。①何を②どのタイミングで問いかけるのか、重要である。

授業外の児童の姿も評価対象に！

### POINT2 教師の問いかけが児童の秘めた言葉を引き出す

#### あめとシャワーの音のちがい



アイディアを共有することで、語彙は増えてくる。活動中も教師は一度児童を集めて、今、体験したことをその場で発表させたり、さらに問いかける場を作ったりした。すると、児童は新たな気づきをもつだけでなく、言葉で表現できずにいた気づきを明らかにすることができ、「自分もやってみよう！」という新しい活動への意欲につながった。「傘に当たる雨の音と、シャワーの音は違う！」「本当かな？」と確かめる活動に広がり、新たな発見、気づきを促した。

バケツとゴミ箱に雨水を落とし、音の違いを楽しんでいたが、友達の発表を聞き、小さな水たまりをつなげ、大きな水たまりを作る活動に発展した。

# 音楽を形づくっている要素を基に 児童の学びにつなげる



## POINT 1 指導と評価を一体化する

音楽科での学習評価とは、「演奏や作品が上手にできたか、そうでないかの判定」ではありません。「どういう指導をした結果、どうなったか？」を見取ることです。そのために、以下の3点を大切にしましょう。

- ① 学習指導要領解説の〔共通事項〕
- ② 「曲を教える」のではなく「曲で教える」
- ③ 音楽を形づくっている要素の知覚（聴き取ったこと）・感受（感じ取ったこと）

### 〔共通事項〕

ア 音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えること。

（思考力、判断力、表現力等）

イ 音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる音符、休符、記号や用語について、音楽における働きと関わらせて理解すること。（知識）

## POINT 2 児童が試行錯誤しながら創意工夫する

音楽を形づくっている要素を基に、音や音楽を介して、友達と試行錯誤しながら創意工夫する場面を設定しましょう。出来栄えだけに注目するのではなく、児童なりの創意工夫の場면을重視します。演奏したり歌ったりする学習が苦手な児童でも、思いや意図をもち、創意工夫をすることにより学習への意欲が高まります。この学習でも、音楽を形づくっている要素の知覚・感受を支えとしましょう。そして、自らの思いや意図が、聴き手に音楽で伝えることができる学習の深まりが求められます。

### ＜音楽を形づくっている要素＞

ア 音楽を特徴付けている要素  
音色、リズム、速度、旋律、強弱、音の重なり、和音の響き、音階、調、拍、フレーズなど

イ 音楽の仕組み  
反復、呼びかけとこたえ、変化、音楽の縦と横との関係など

ここは、元気な感じ（感受）を表現したいから  
少し速く（知覚）演奏するね！



ここは、弱く（知覚）演奏しているからやさしい感じ（感受）に聴こえるね！

## POINT 3 児童の学びをイメージする

この学習で『学び』をどこに設定するかを計画しましょう。楽しくなければ音楽ではありません。しかし、楽しいだけではいけません。学びの広がり求められます。

- ① それぞれの活動において、ねらいを意識した授業づくりを意識する。
- ② 題材において身に付けるべき「知識」「技能（表現領域のみ）」を確認する。
- ③ 「この時間に児童が何を学ぶのか」「何ができるようになるのか」をイメージする。

## 5学年

# 「曲の特ちょうをとらえて 歌唱表現しよう」

音楽科実践事例



A 表現(1)歌唱

歌詞の内容や曲想にふさわしい表現を工夫して、思いや意図をもって歌唱表現する。

教材：「すてきな一歩」 長井理佳 作詞 長谷部匡俊 作曲  
「翼をください」 山上路夫 作詞 村井邦彦 作曲

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①知曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解している。</p> <p>②技思いや意図に合った表現をするために必要な、呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない、響きのある歌い方で歌う技能を身に付けて歌っている。</p>	<p>思①旋律、強弱、反復、変化を聴き取り、それらと歌詞の内容や旋律の動きとの関わり合いを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。</p>	<p>態①曲の特徴を捉えて表現する学習に興味をもち、音楽を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習に取り組もうとしている。</p>

### POINT1 音楽を形づくっている要素を選択する

思考・判断のよりどころとなる、主な音楽を形づくっている要素「旋律、強弱、反復、変化」を選択し、それらに関連付けて指導している。そして、それを指導するのにふさわしい教材を扱っている。

〔共通事項〕に示す「音楽を形づくっている要素」

音色、リズム、速度、旋律、強弱、音の重なり、和音の響き、音階、調、拍、フレーズ、反復、呼びかけとこたえ、変化、音楽の縦と横との関係など

### POINT2 言語活動を適切に位置付ける



この **p** は悲しい感じで歌おう

旋律のまとまりごとにふさわしい歌い方について、どのように工夫したらよいか話し合いを設定した。そのとき、それぞれの工夫を歌って試してみるなど、言語だけの活動にならないように、音や音楽を介した言語活動が大切である。そして、常に音楽を形づくっている要素の知覚・感受を支えとし表現を工夫させた。

### POINT3 実感を伴って理解できるようにする

常時活動は、本時の学習のめあてに沿って取り入れ、展開につなげることが効果的である。また、児童が思いや意図をもって、表現を工夫した演奏を録音するなどをして客観的に聴き、その表現を工夫したことが聴き手に伝わっているか実感できるようにした。伝わっていなかった児童には、なぜ表現を工夫した部分が自らの演奏で聴き手に伝わらないのかについて考えさせ、技能の習得へとつなげた。

## 指導と評価の両面から 児童の思いに寄り添う



### POINT 1 「題材名」で、児童と「ねらい」を共有する

題材名には、児童の意欲を高めるだけでなく、学習のねらいやポイントを児童に伝える役割もあります。教科書の題材名をそのまま使うこともできますが、児童の実態に合わせて、アレンジすることも可能です。児童の学びの姿をイメージしながら題材名を考えてみましょう。

また、題材名をキーワードにしながら授業を進めることで、先生の声かけや児童のつぶやきも変わってきます。

みんなの「ここがお気に入り」はできたかな？  
〇〇さんの「お気に入り」のポイントを教えてくれる？



【3年・題材名「ここがお気に入り」】

### POINT 2 「問いかけ」で、児童の「思い」を引き出す

声かけにも様々な種類がありますが、特に大切にしていきたいのは、児童に思いを尋ねる「問いかけ」です。「これはどんなイメージでつくっているの？」「これからどうなっていくのかな？」といったように、児童の思いを引き出すような問いかけができると、作品からだけでは読み取ることが難しい児童の思いに触れることができます。

ただし、声かけをする時は、児童の活動の妨げにならないように配慮が必要です。活動する様子を見ながら、児童が話したくなるタイミングで問いかけてみましょう。



【4年・題材名「つなぐんぐん」】

### POINT 3 「深い学びの視点」で、児童の「創造性」を育成する

図画工作科における「深い学び」の鍵となるのが、造形的な見方・考え方です。造形的な見方・考え方とは、「感性や想像力を働かせ、対象や事象を、形や色などの造形的な視点で捉え、自分のイメージをもちながら意味や価値をつくりだすこと」です。

図画工作科で育成する資質・能力と造形的な見方・考え方とは、右の図のように互いに支え合う関係と言えます。指導や評価をするのは「資質・能力」ですが、その力を育成していくためには、児童が「見方・考え方」を働かせる授業づくりをしていくことが大切です。



## 指導と評価の両面から 児童の思いに寄り添う



### POINT 1 「題材名」で、児童と「ねらい」を共有する

題材名には、児童の意欲を高めるだけでなく、学習のねらいやポイントを児童に伝える役割もあります。教科書の題材名をそのまま使うこともできますが、児童の実態に合わせて、アレンジすることも可能です。児童の学びの姿をイメージしながら題材名を考えてみましょう。

また、題材名をキーワードにしながら授業を進めることで、先生の声かけや児童のつぶやきも変わってきます。

みんなの「ここがお気に入り」はできたかな？  
〇〇さんの「お気に入り」のポイントを教えてください？

私だけの「お気に入り」ができました！

何度もつくりかえて、この感じが気に入っています。



【3年・題材名「ここがお気に入り」】

### POINT 2 「問いかけ」で、児童の「思い」を引き出す

声かけにも様々な種類がありますが、特に大切にしていきたいのは、児童に思いを尋ねる「問いかけ」です。「これはどんなイメージでつくっているの？」「これからどうなっていくのかな？」といったように、児童の思いを引き出すような問いかけができると、作品からだけでは読み取ることが難しい児童の思いに触れることができます。

ただし、声かけをする時は、児童の活動の妨げにならないように配慮が必要です。活動する様子を見ながら、児童が話したくなるタイミングで問いかけてみましょう。

これからどうなっていくのか、聞かせてくれる？

この部分をつなげて、飛行機みたいにする予定です。あっ、じゃあ、そうじゅう席もつくってみようかな。

ふむふむ。表したいものが見つかったいな。

話していたら、新しいアイデアが浮かんできたぞ。



【4年・題材名「つなぐんぐん」】

### POINT 3 「深い学びの視点」で、児童の「創造性」を育成する

図画工作科における「深い学び」の鍵となるのが、造形的な見方・考え方です。造形的な見方・考え方とは、「感性や想像力を働かせ、対象や事象を、形や色などの造形的な視点で捉え、自分のイメージをもちながら意味や価値をつくりだすこと」です。

図画工作科で育成する資質・能力と造形的な見方・考え方とは、右の図のように互いに支え合う関係と言えます。指導や評価をするのは「資質・能力」ですが、その力を育成していくためには、児童が「見方・考え方」を働かせる授業づくりをしていくことが大切です。



## 3学年(絵・立体・工作) 「ここがお気に入り」

### 図画工作科実践事例1



教室内の気に入った場所に、自分の写真や材料などを組み合わせて、お気に入りの世界を工夫して表す

#### ○題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の感覚や行為を通して、場所や写真などを組み合わせた感じが分かっている。</li> <li>材料や用具を適切に扱うとともに、前学年までの材料や用具についての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>場所や写真などを組み合わせた感じを基に、自分のイメージをもちながら、感じたこと、想像したこと、見たことから、表したいことを見つけ、表したいことを考え、形や色、材料などを生かしながら、どのように表すかについて考えている。</li> <li>場所や写真などを組み合わせた感じを基に、自分の見方や感じ方を広げている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>つくりだす喜びを味わい進んで表現したり鑑賞したりする学習活動に取り組もうとしている。</li> </ul> 

#### ○指導と評価の一体化のポイント

**【POINT 1】**・・・題材名を生かした声かけ **【POINT 2】**・・・思いを引き出す問いかけ

## 4学年(造形遊び) 「つなぐんぐん」

### 図画工作科実践事例2

丸めてつくった新聞紙の棒を組み合わせたったり、切ってつないだりして、手や体全体を十分に働かせ、活動を工夫してつくる



#### ○指導と評価の一体化のポイント

**【POINT 2】**・・・思いに寄り添った声かけ  
**【POINT 3】**・・・見方・考え方を意識した鑑賞活動

## 3学年(鑑賞) 「〇〇がいっしょはど〜れだ？」

### 図画工作科実践事例3

共通点に着目したクイズを互いに出し合うことで、作品のよさや面白さを感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる、



#### ○指導と評価の一体化のポイント

**【POINT 1】**・・・題材名を生かした振り返りの工夫  
**【POINT 3】**・・・クイズを取り入れた創造的な鑑賞活動

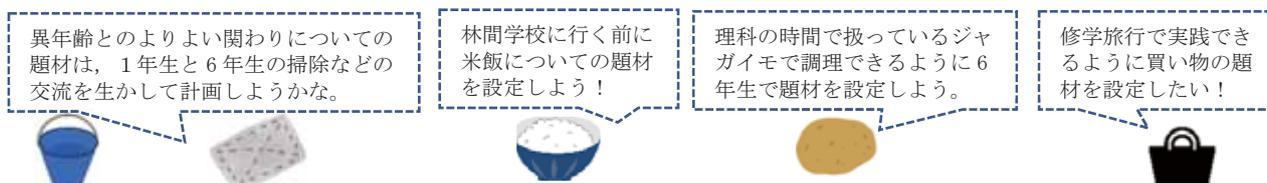
～ここで紹介している3つの授業の様子は、右のリンクから見ることができます～



## 実生活と関連を図り 具体的な評価場面を工夫する

### POINT 1 生活を振り返り、より身近な題材を設定する

児童の発達の段階等に応じて、効果的な学習が展開できるよう、各内容項目や指導事項の相互の関連を図ることが重要です。その上で指導する内容に関係する学校、地域の実態、児童の興味・関心や学習経験を踏まえ、より身近な題材を設定するように配慮します。



※題材…学習指導要領の各項目に示される指導内容を指導単位にまとめて組織したもの。

### POINT 2 生活課題を解決できるように、学習過程を工夫する

「思考・判断・表現」の評価については、教科の目標の(2)に示されている学習過程(右図)に沿って、各題材において、次に示す四つの評価規準を設定し、評価することが考えられます。

課題の設定では、題材を貫いた「課題」や「問い」を設定することで、課題を掴ませることができます。

- 日常生活の中から問題を見だし、解決すべき課題を設定する力
- 課題解決の見通しをもって計画を立てる際、生活課題について自分の生活経験と関連付け、様々な解決方法を考える力
- 課題の解決に向けて実践した結果を評価・改善する力
- 計画や実践について評価・改善する際に、考えたことを分かりやすく表現する力

評価規準は各題材の構成に応じて適切に位置付けることに留意する必要があります

学習過程は、児童の実態や題材構成等に応じて異なります。



### POINT 3 家庭科の内容の特質に応じた評価場面を工夫する

例えば、以下のような活動から評価場面を設定するようにします。

- ・直接的な体験を通して、調理や製作等の手順の根拠について考える活動
- ・観察して気付いたことなどを実感をもって言葉で表現したりする活動
- ・児童同士で協働したり、意見を共有して互いの考えを深めたり、家族や身近な人々などとの会話を通して考えを明確にしたりする活動
- ・調理や製作等の実習、調査、交流活動等を通して、課題の解決に向けて実践した結果を振り返り、考えたことを発表し合い、他者からの意見を踏まえて改善方法を考える活動

# 5学年

## 「めざそう 買い物名人」

### 家庭科実践事例



C(1) 物や金銭の使い方と買い物ア(ア)イ, イ  
 生活で使う身近な物や食材などを取り上げ、児童や家族の生活と結び付けて考える。  
 (全6時間)

#### 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 買い物の仕組みや消費者の役割が分かり、物や金銭の大切さと計画的な使い方について理解している。</li> <li>• 身近な物の選び方、買い方を理解しているとともに、購入するために必要な情報の収集・整理が適切にできる。</li> </ul>	身近な物の選び方、買い方について問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	家族の一員として、生活をよりよくしようと、物や金銭の使い方と買い物について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとしている。

#### POINT1 児童の実態や今後の学習内容を踏まえた題材を構成する

【児童の実態】買い物は徒歩で近くの商店または家族と車でスーパー等。自分で商品を選ぶことはほとんどない。半数以上の児童がお小遣い等をもらっている。物や金銭の大切さへの意識は低い。

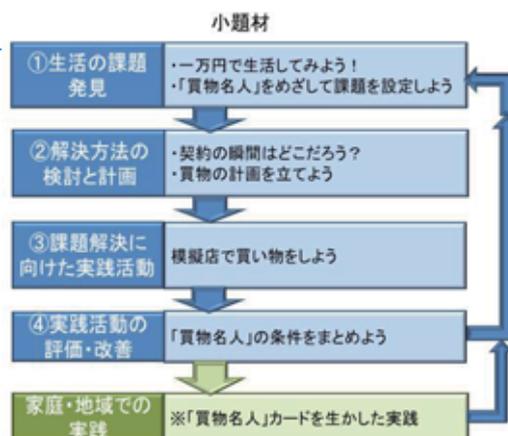
〔主な学習活動 全6時間〕

1. 2時間目…一週間、一万円で生活してみようゲーム、買い物チェック（自分や家族の生活を振り返り、限られた予算でのお金の使い方を考える）、題材を通して解決したい自分の課題の設定
  - 3時間目…駄菓子屋での買い物ロールプレイ（児童がよく行く店を想定してのロールプレイ）
  - 4時間目…身近な物の購入計画（調理実習で使う味噌、自主学习ノート）
  - 5時間目…模擬店での買い物の実践（※前時の学習を基に 調理実習で使う豆腐、自主学习ノート）
  - 6時間目…買い物名人の条件をまとめる（買い物名人カードの作成。家庭掲示用、自分の財布用）
- 家庭との連携…「契約」の場面を伝える、味噌の購入の視点を調査する、買い物名人の条件を伝える

#### POINT2 評価規準を学習活動に即して具体化する

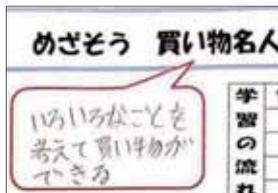
「思考・判断・表現」の評価について、評価規準を設定し、題材の構成に応じて適切に位置付ける。

- 身近な物の選び方、買い方について問題を見いだして課題を設定している。
- 身近な物の選び方、買い方について計画を考え、工夫している。
- 身近な物の選び方、買い方についての課題解決に向けた一連の活動について、考えたことを分かりやすく表現している。
- 身近な物の選び方、買い方について実践を評価したり、改善したりしている。

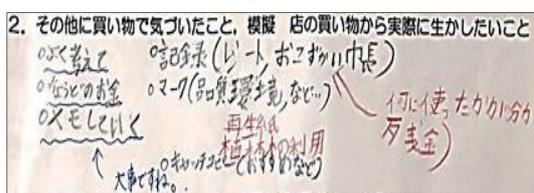


#### POINT3 評価場面を工夫する

○課題設定の場面



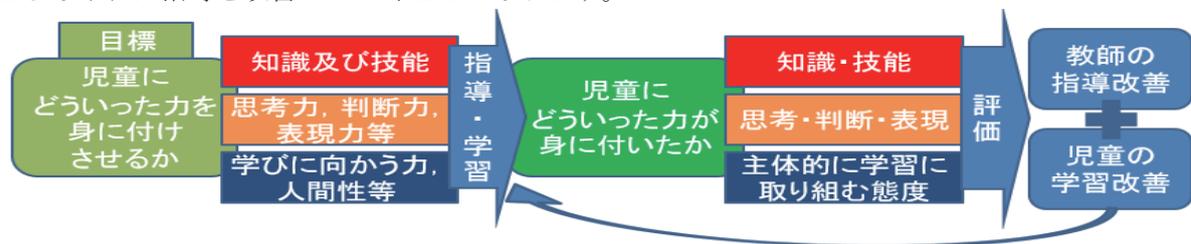
○模擬店での買い物の実践の場面



## 目指す姿を3観点で想定し 評価を指導の改善につなげる

### POINT 1 「知識・技能」を動きの質的な変容で確認する

単元が終了したとき、児童がどのような力を身に付けることができているか、目指す姿を具体的に想定しておく必要があります。特に技能については、どのような動きを身に付けることで「概ね満足できる」姿とするのか曖昧なままでは指導も評価もできません。また、距離、回数、時間などの「記録」を向上させることは、児童の願いとして大事にしていますが、記録の伸長のみで評価することは、身に付ける技能の定着を十分に評価しているとは言えません。記録を伸ばすための動きのポイントを理解しているか、動きの質的な変容が見られたかを観察し、評価していくことが大切です。そして、想定した姿に至らなければ指導を改善していくことになります。



### POINT 2 「思考・判断・表現」を動きのポイントに基づく学習で評価する

児童は、「達成したい」、「解決したい」という明確な目標があれば、そのための手がかりを主体的に探ろうとします。動きのポイントについての資料と自分の動きと比較して課題を見付けることや、見付けた課題を解決するために運動の場を選んだり、動きを工夫したりすることが「思考力、判断力」となります。また、見付けたことや考えたことを友達などに伝えることなどが「表現力」となります。これらの力を高めるための学習活動を設定した上で、学習中の発言や授業後の学習カードへの記述等で評価し、指導の改善につなげます。

特に、言語活動を児童にとって必要感のあるものにするためには、次の3点を大切にします。

- ① 運動の行い方、動きのポイントの理解を促す資料の提示
- ② 課題を発見する手立ての用意（視点を明確にした教え合い、ICTの活用等）
- ③ 課題を解決するための場の設定（個に応じた効果的な運動ができる場等）

言語活動の場面を設定するだけでなく、言語活動の目的を明確にし、話し合うための材料を準備しておくことが肝要です。

### POINT 3 「学びに向かう力、人間性等」の指導を計画的に行う

学習指導要領において、体育科の運動領域では、「学びに向かう力、人間性等」の指導内容が示されています。単元を通して、その内容をいつ、どのように指導するのか、指導者が見通しをもって計画しておく必要があります。例えば、「順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動をする」ことを、動きを高める学習を通じて、どこかの場面で指導しているからこそ評価することができます。とりわけ、「場や用具の安全に気を付ける」ことは、単元のはじめに必ず指導し、評価してください。

# 3学年

## 投の運動

体育科実践事例

単元名：「全身で、全力で、遠くに投げよう」

(C走・跳の運動に加えて指導した事例)

目指す動きを具体的に設定し、指導と評価を行う。



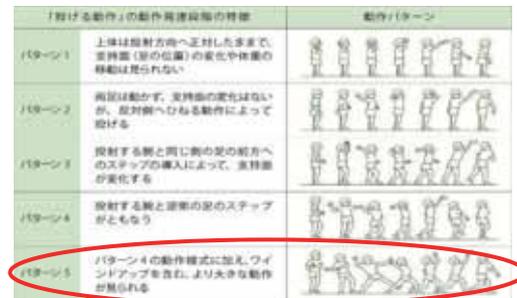
評価規準（学習活動に即した評価規準）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①投の運動の行い方を言ったり、学習カードに書いたりしている。 ②投げる腕と反対の足を踏み出し、胸を張り、腕を大きく振って投げることができる。 ③短い助走からステップするなど大きい重心移動から投げることができる。(4年)	①学習カードと自分の動きを比較し、動きの改善点を見つけている。 ②動きの改善点について、気付いたことや考えたことを友達に伝えている。(4年)	①自分の動きについての友達の意見を認めようとしている。(4年) ②運動を行う前に、場や用具の安全を確かめている。

※第3学年及び第4学年において継続して指導する単元のため、          は、第4学年で評価する計画。「走・跳の運動」のまとめりの中で、「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」の評価を計画的に設定することにより、本単元の評価の観点の精選を図った。

### POINT1 目指す「投の運動」を質的に確認する

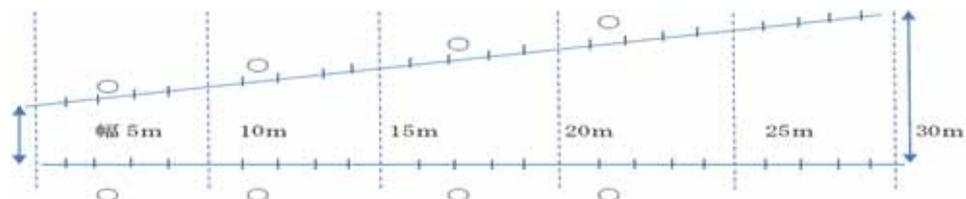
学習の成果は単に投げる距離の伸長だけでなく、動きの質の変容に表れるため、どのような動きを目指すのか想定しておく必要がある。そこで、本単元では、「幼児期運動指針」に示す投げる動きのパターンから、「パターン5」を「概ね満足できる姿」とした。つまり、「知識・技能」の②を図示したものが「パターン5」である。



幼児期運動指針ガイドブック（2013 文部科学省）より

### POINT2 動きを高めるための言語活動を設定する

- ① 動きのポイントの理解を促す資料の提示
  - ・「重心の移動」、「踏み出した足を軸とした回転」、「胸の張り」、「大きな腕の振り」、「肘を高く上げる」を示したカードを掲示し、自分たちの動きと比較できるようにする。
  - ・「トン・トン・ビュン」のオノマトペと、資料とを組み合わせることで、動きのポイントの理解を深める。
- ② 課題を発見する手立ての用意
  - ・3人組で学習し、互いの動きのよい点や改善点を、見るポイントを分担して伝え合うように指導する。
  - ・教師が児童の投動作をタブレット端末で撮影し、児童同士の話し合いの場面で適宜視聴させる。
- ③ 課題を解決するための場の設定
  - ・児童が、自分の力に応じて繰り返し運動が行えるように下図の運動の場を設ける。



### POINT3 共生及び安全の指導を計画的に行い評価する

- ・自分の技能とともに、ペアの技能の高まりも目標とすることで、互いの意見を認め合うなどの共生の価値について運動を通して気付くように指導し、学習カードの記述等から評価する。
- ・投げる前に「周りに人がいないか確認する」、「声をかける」、「ペアが自分を見ていることを確認する」ことを確実に指導し、安全に気を付けているか観察によって評価する。

## 思考する必然性のある場面で 児童のパフォーマンスを見取る

### POINT 1 コミュニケーションを行う目的・場面・状況の設定

新学習指導要領では、言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地・基礎となる資質・能力を育成することを目指しています。コミュニケーションを行う目的・場面・状況等を設定することで、「こんな目的のときには、どんな表現だと伝わるかな?」「この人にはどんなことを言ってあげると喜ぶかな?」「こんな場面だったら、どんなふうに言えば自然かな?」と、児童が思考・判断・表現します。児童にどのような力を身に付けさせたいか教師が見通しをもち、指導と評価の計画を立てていきましょう。

コミュニケーションを行う目的、場面、状況が明確でない...

「自分の町を紹介しよう。」  
This is my town.  
We have a station.  
We don't have a park.

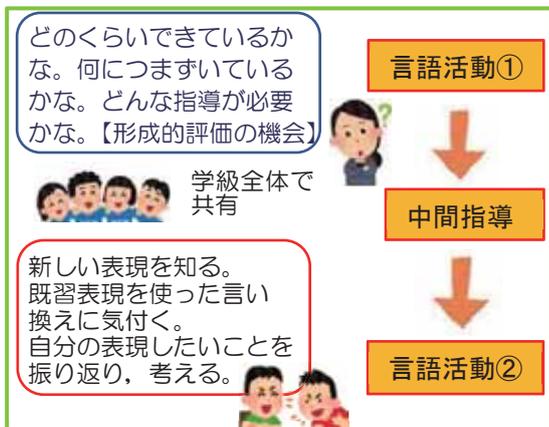


「町長さんに自分たちの町紹介を聞いてもらおう。」  
This is my town.  
We have a station.  
It's nice.  
We don't have a park.  
I like playing with my friends.  
I want a big park.

もっとくわしく、町紹介してみたいな。どんな表現を使って話そうかな。



### POINT 2 中間指導で、いま何ができて何ができないのかに気付く



思考・判断・表現を見取ることは、主体的に学習に取り組む態度を見取ることにもつながります。そのためには、やり取りや発表などパフォーマンス活動を多く設定し、その中で、どの程度目標に近付いているかを見取りながら評価していくことが求められます。言語活動の途中で、課題を共有したり解決したりするための「中間指導」を行うことで、教師も児童も、「いま何ができて、何ができないのか」を知ることができ、その後の言語活動では、さらに発展的なやり取りができるようになります。

### POINT 3 児童の振り返りを、指導改善・学習改善に生かす

学習後の児童の振り返りが単なる感想ではなく、自らの学習を調整する力や、粘り強い取組を行う力につながるように、以下のような視点をもって点検や分析をし、指導と評価の一体化を図ります。

#### (1) 教師の指導改善につなげる

授業のめあてと関連付けた気づきが児童に見られたか、最終ゴールに向けて児童に変容が見られたか、などを見取ります。

#### (2) 児童の学習改善につなげる → 主体的に学習に取り組む態度

授業で何に気付くことができたのか、何ができるようになったのか、次に改善したいことは何かを、児童自身が振り返ります。

## 4学年

# 「学校紹介マップをつくり，ALT の先生にプレゼントしよう」

外国語活動実践事例

単元名：“This is my favorite place.”

(Let's Try! 2 Unit8)

目的・場面・状況を明確にした言語活動を通して，児童の気づきを促す。



### 評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話し表現	<知識> 教科名や教室名，道案内の仕方について理解している。 <技能> 教科名や教室名，道案内の仕方についての言い方に慣れ親しんでいる。	ALTに学校の英語マップをプレゼントするために，自分が気に入っている校内の場所について伝え合っている。	ALTに学校の英語マップをプレゼントするために，自分が気に入っている校内の場所について伝え合おうとしている。

### POINT1 必然性のある場面を設定する

「自分たちの学校を紹介したい。」という児童の意欲を高めるためには，どのような場面設定が必要かを考え，まだ学校に来たばかりのALTの先生に（相手），自分たちの学校をよく知ってもらうために（目的），英語のマップを作成して，紹介しよう（場面）という言語活動を設定した。

### POINT2 児童が話した内容を評価し，互いの気づきの中から正しい表現を身に付けさせる

児童同士のやり取りの様子を教師が見取り，活動の途中に学級全体で共有したい課題を取り上げた。全体で共有することで，児童が気づき，「自分の言葉」として伝え合うことができるようになった。また，他の児童も，自分の表現を再考する機会となり，その後の言語活動がさらに充実した。

My favorite place is playground.  
I like baseball. D君

クラスの様子を見ると My favorite place is ～ は言えているけど，理由を話すのが，難しそうだ。D君の伝えたい内容を学級で共有しよう。

I like run. D君

Nice! I like running. (説明をするのではなく，正しい表現に言い直すことで児童の気づきを促す。)

思考・判断・表現：おむね満足できる状況 (B)

友達と話していたら，もっとくわしく話したくなった。走るのが好きって何て言ったらいいのかな。 D君

走るってなんて言ったらいいと思う。

Run!

My favorite place is playground.  
I like baseball.  
I like running. D君

思考・判断・表現：十分満足できる状況 (A)

### POINT3 点検と分析を効率よく行う

振り返りカード点検→振り返りカードに記載された児童の自己評価が，指導者の見取りと違った場合，次時の授業で児童の自己評価の内容を指導に生かすこと。

振り返りカード分析→授業中の児童の行動観察だけでは見取れない場合，「振り返りカード」に記載されている内容を分析し，児童の様子を捉えるようにすること。

～児童の振り返りカードより～

○授業で気づいたこと・次にかんばりたいこと  
 ○〇先生が，私の発表を「オ～！」と言いながら聞いてくれてうれしかった。〇〇先生の表情を見て，私も表情をかえながら，発表するように気がついた。プレゼントしたマップを喜んでくれてうれしかった。

#### 【振り返りカード分析】

単元の最終ゴールで，ALTに好きな場所を紹介した。ずっと紹介したい相手であったALTの反応を意識しながら，発表しようとしていたことが，振り返りカードのコメントから分析できる。

主体的に学習に取り組む態度：十分満足できる状況 (B)

# 評価の視点を 具体的な子供の学びの姿から考える

## POINT 1 評価の視点に基づいた「具体的な子供の学びの姿」を想像する

学習指導要領解説では、評価の視点として主に2つの視点が示されています。それらを見取るためには、次のような「具体的な子供の学びの姿」を想像することが大切です。そして、自己を見つめ物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を構想していきます。

### ①多面的・多角的な見方へと発展させているか

- ・ねらいとする道徳的価値を様々な面から考えている
- ・道徳的価値を支える様々な根拠を考えている
- ・様々な登場人物の立場で考えている
- ・時間の経過とともに変化する気持ちを考えている
- ・人間の弱さや強さ等を捉えて考えている
- ・自分と違う意見や立場を捉えて考えている

### ②自分自身との関わりの中で深めているか

- ・教材の登場人物を自分に置き換えて考えている
- ・教材の問題点等を自分事として受け止めて考えている
- ・日常や学校生活等を想起しながら考えている
- ・自分の生活を見つめ、振り返りながら考えている
- ・自分だったらどうするか考えている

例えば……



親切について多面的・多角的に考えさせたいな。登場人物が取った行動をどう思うか考えさせる中で、気付かせていこう。

声をかけずに見守っていた登場人物の行動をどう思いますか。

相手のことを考えて注意してあげる親切もあるから、相手の気持ちを考えてとった行動なら、声をかけなくても親切な行動だと思うよ。



やっぱり、声をかけて助けあげることが大切だと思う。でも、声をかけるって勇気があるよね。ぼくは、なかなかできないもん。親切な行動には相手のことを考えるということが大切なのかも。

## POINT 2 子供の学びの姿を見取る（具体的な評価の方法）

評価は、個々の教師が個人として行うのではなく、学校として組織的・計画的に取り組むことが重要です。取組の蓄積と定着が、評価の妥当性、信頼性等の担保につながります。

### ノートやワークシート

授業の振り返りを見取りやすい方法の一つです。さらに、学期末や学年末に学習したことを振り返ることで、自己の成長に気付くことができます。

#### 【ワークシート記述（例）】

\*自分の生活を見つめ、振り返りながら考えている例

ぼくもこれまでルールを守らなかったことがたくさんありました。でも、今日の授業を通して、そんな自分がはずかしいと思いました。だからもう、ルールを守らないことはしないようにしようと思いました。

### 自己評価や相互評価

児童の学びの傾向の把握や、授業改善の資料として役に立ちます。ノートやワークシートに位置付け、活用している例が多くあります。

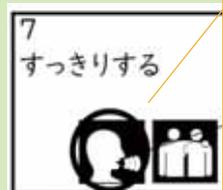
### チームによる評価

相互に授業を参観し、他の教師と協力して行う評価の一つです。児童の新たな一面を見ることができ、児童をより多面的・多角的に把握することができます。

### エピソード記録

指導者が、座席表やノート等に児童の学習状況を記録していく方法です。毎時間全員を記録していくことは難しいので、計画的に学習状況を見取ることが大切です。

#### 【座席表（例）】



つばやきやグループ活動等のアイコンを位置付け、顕著にあらわれた活動に○を付ける。

# 2学年

## 「すなおにのびのびと」

【A-（2）正直，誠実】

道徳科実践事例

教材名 子だぬき ポン（学研「みんなのどうとく2年」）

評価の視点

- ・弱さも含め、時間の経過とともに変化するポンの気持ちを、多面的・多角的に考えていたか。
- ・素直に伸び伸びと生活することのよさについて、自分の生活を見つめ、自分なりの考えを深めていたか。



### POINT1 具体的な子供の学びを想像し、学習指導過程を構想する

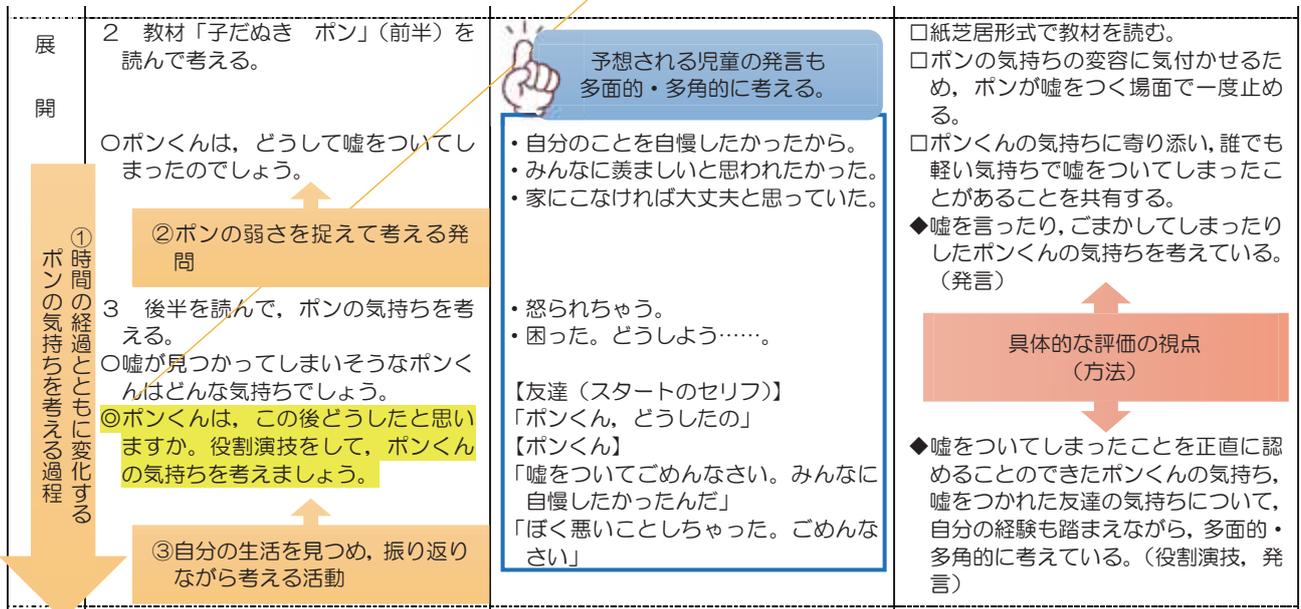
□多面的・多角的な見方へと発展させる姿

- ① 時間の経過とともに変化するポンの気持ちを考えているか
- ② ポンの心の弱さを捉えて考えているか

□自分自身との関わりの中で深める姿

- ③ 自分の生活を見つめ、振り返りながら考えているか

正直に謝ることのできたポンの気持ちについて「ほかほかした」とつぶやいた児童がいた。「今までは嘘をついていたけれど、気持ちが変わった」「『ごめんね』って言えたからすっきりした」と、これまでのポンの言動から変化があったことに気付いていた。（多面的・多角的な見方へと発展させている）



（指導案一部抜粋）

### POINT2 ワークシートや座席表を用いて子供の学びの姿を見取る

教科書挿絵

**Check!**

ワークシートは、全ての発問で書かせるのではなく、使用する意図をもち、書かせる場面を選択しましょう。

ポんくんの気持ちを考えることを通して、いけないことをしてしまったときにはその身を認め、あやまることのよさについて、素直に伸び伸びと生活しようとする態度を育む。

○多面的・多角的な見方へと発展させている児童の感想  
 「〇〇さんの意見を聞いて、いけないことをしたときに謝ると気持ちがすっきりすることが分かった」  
 「正直に謝るって、難しいと思った」

○自分自身との関わりの中で深めている児童の感想  
 「普通の生活でも嘘をついちゃうときがあるけど、最後はちゃんと謝る自分でいたいと思った」

**Check!**

座席表は、発言やつぶやき、活動の様子だけではなく、他の児童の意見に対する反応や様子について線や矢印等で表すことで、他者との関わりを見取ることができます。

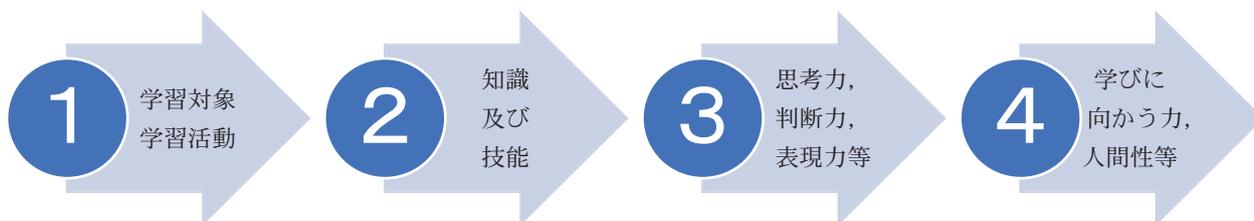
# 探究的な活動を通して 児童の変容を見取る評価規準の設定

## POINT 1 単元の目標を確認する

学校において定める総合的な学習の時間の内容（「探究課題」及び「探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力」）をよりどころとして、中核となる学習活動を基に、どのような学習を通して、どのような資質・能力を育成することを旨とするのかを、単元の目標を通して確認します。

内容	
<b>探究課題</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代的な諸問題に対応する横断的・総合的な課題</li> <li>・地域や学校の特色に応じた課題</li> <li>・児童の興味・関心に基づく課題</li> </ul>	<b>具体的な資質・能力</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・知識及び技能</li> <li>・思考力、判断力、表現力等</li> <li>・学びに向かう力、人間性等</li> </ul>

単元の目標では、以下の4点を具体的に示していることが大切です。



## POINT 2 育成を目指す資質・能力を踏まえた評価規準を作成する

評価規準を作成する際は、児童の実態や地域の特性を生かしたうえで、学習指導要領解説に示されている内容と、以下に示すポイントに沿って設定します。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以下の3項目に沿う ①相互性 ②有限性 ③多様性 ※文末表現は「～理解している」等を用いて設定	探究のプロセスに沿う ①課題設定 ②情報の収集 ③整理・分析 ④まとめ・表現 ※4項目とも文末表現は「～している」を用いて設定	以下の2項目に沿う ①自分自身に関すること ②他者や社会との関わりに関すること ※2項目とも文末表現は「～している」を用いて設定

## POINT 3 児童の変容や新たな「課題」を、探究的な過程から見取る

児童が「粘り強い取組を行おうとする側面」において、探究的な学習に協働して取り組む中で、継続的に自らの問いや学びの意義を見だし、課題解決に取り組もうとする態度に現れてくると考えることができます。それを見取るために、ワークシートを工夫しポートフォリオ形式にしたり、毎時間の感想に継続性をもたせることを意識したりする工夫が考えられます。さらに、協働学習等における児童の発言からも意識の変容を見取ることが可能となります。



## 6学年

### 「ふれあいフェスティバルに向けて」

#### 特別活動実践事例

題材：学級活動（3）一人一人のキャリア形成と自己実現

ア 現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成

- ・ポートフォリオに基づいた自己評価
- ・話し合い活動による相互評価

#### 評価規準

よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
希望や目標をもつこと、働くことや学ぶことの意義を理解し、自己のよさを生かしながら将来への見通しをもち、自己実現を図るために必要な知識や行動の仕方を身に付けている。	希望や目標をもつこと、働くことや学ぶことについて、よりよく生きるための課題を認識し、解決方法などについて話し合い、自分に合った解決方法を意思決定して実践している。	現在及び将来にわたってよりよく生きるために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自己のよさを生かし、他者と協働して、自己実現に向けて自主的に行動しようとしている。

#### POINT1 「目指す児童の姿」に基づいて評価する

本時のねらい

『これまでの縦割り班活動について振り返ることを通して、最上級生としての自分なりのめあてをもって「ふれあいフェスティバル」に臨むことができるようにする。』

⚠️ 話し合いで出された考えを踏まえ、自分の課題に合った具体的なめあてを立てているかが評価のポイントとなる。

評価の場面

- ① 縦割り活動の意義や課題に関わる「話し合い活動」の場面
- ② 今後の取組に関する意思決定の場面

目指す児童の姿

- ① 縦割り活動の意義や課題について、自分なりの考えをもち、友達に伝えている。
- ② 話し合い活動で出された考えから、自分の課題を踏まえ、ふれあいフェスティバルに向けた具体的なめあてを決めている。

※いずれも【思考・判断・表現】の観点

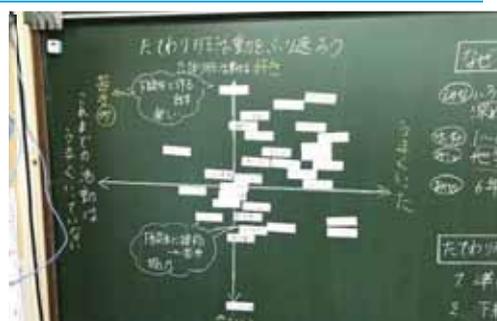
#### POINT2 自己評価と相互評価とを組み合わせる

##### ・自己評価の仕方を押さえる

「ポジショニングマップ」などを活用して、事前アンケートの自己評価について整理させ、めあての設定につなげる。

##### ・相互評価で自己評価を再整理する

自己評価に基づいた話し合い活動を通して、お互いの成果や課題、よさ等について相互評価を行う。それにより、自分らしさへの気づきとともに、自己実現に向けた意思決定の深まりを促す。



▲「ポジショニングマップ」で視覚的にも分かりやすく

#### POINT3 児童の意思決定をサポートする

##### ・一人一人の思いをつかんでおく

事前アンケートの結果を一覧表にまとめるなどして、児童の思いの概要を学校生活の状況と合わせてつかんでおく。

##### ・児童の主体的な話し合い活動と意思決定に対話的にかかわる

「目指す児童の姿」の実現に向けての支援となるように留意する。特に、意思決定の内容については、児童自身の考えとなるようにすることがポイントとなる。



▲教師が児童の話し合いに対話的にかかわる

# 6学年

## 「富士川舟運 をさぐる」

総合的な学習の時間実践事例

単元名：地域の発展に向けて取り組む

人々と地域社会

地域の特質や児童・生徒の発達段階を踏まえて、  
児童の探究課題（問い）を引き出す。



### POINT1 単元の目標を確認する

単元の目標には①学習対象・学習活動、②知識及び技能、③思考力を判断力を表現力等、④学びに向かう力、人間性等の育成を目指す資質能力を具体的に示す。

単元の目標（事例：小学校6年 題材名：富士川舟運を探る）

富士川の歴史、事物を幅広く捉える活動を通して（学習対象）、それを伝承する人々の思いに気づき（知識及び技能）、川と共に発展していく自分たちの社会について考える（思考力、判断力、表現力等）とともに、地域や富士川に愛着を深め、学んだことを自らの生活や行動に生かそうとする（学びに向かう力、人間性等）。

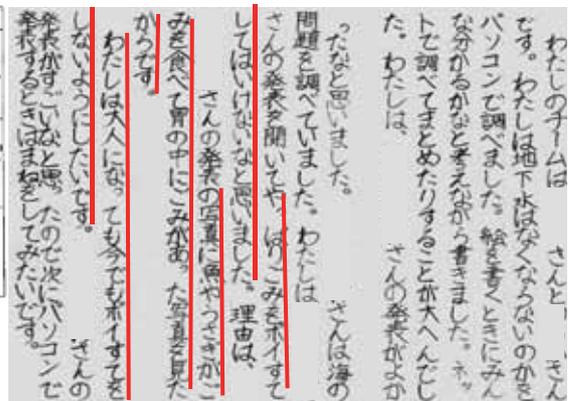
### POINT2 育成を目指す資質・能力を踏まえた評価規準を作成する

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①富士川が今の自分たちの地域を支えていることを理解している。（知識） ②今後の地域の発展のために、地域が共同して取り組む大切さを理解している。（知識） ③富士川の人々の歴史や想いについて収集した情報を図や文章でまとめる方法が分かっている。（技能）	①富士川の歴史を伝承する人々の思いと現状から課題をつくり、解決に向けて自分にできることを考えている。（課題設定） ②自分たちの地域を川と共に発展させていくために必要な情報を、手段を選択して収集している。（情報の収集） ③必要な情報を比較したり関連付けたりしながら、情報を整理し、自分なりの意見や考えを深めている。（整理・分析） ④伝える相手や目的に応じて、自分の考えをまとめ、適切な方法で表現している。（まとめ・表現）	①活動を通して、自分と富士川や地域との関りを見直そうとしている。（自分自身に関すること） ②問題解決の状況を振り返り、地域の発展に向けて取り組もうとしている。（他者や社会との関わりに関すること）

### POINT3 ワークシートから児童の変容を見取り、評価する

項目	◎・○・△	振り返りコメント
①富士川舟運に関心を持ち、進んで学習ができましたか。	◎	舟のこまや御米蔵のこまや油の、塩の、なまこかべのこまをしらてよろろたてす
②フィールドワークや出前授業で、富士川舟運について理解を深められましたか。	◎	出前授業で話を聞いてみれば米もはこぶのたいへんたことかあかりました。
③今後の学習課題（調べてみたいこと）を設定することができましたか。	◎	ふねの構造をいったりあんな大きい船が難破する理由が知りたいです。



フィールドワークで「舟・御米蔵」に興味をもち、出前授業で「米を運ぶ大変さや舟の大きさ」を知り、今後は「舟の構造や大きな舟が難破する理由」を課題に設定した。知識が深まっていく中でさらなる疑問が生まれ、自分で調べてみたいという思いをもつことができた。

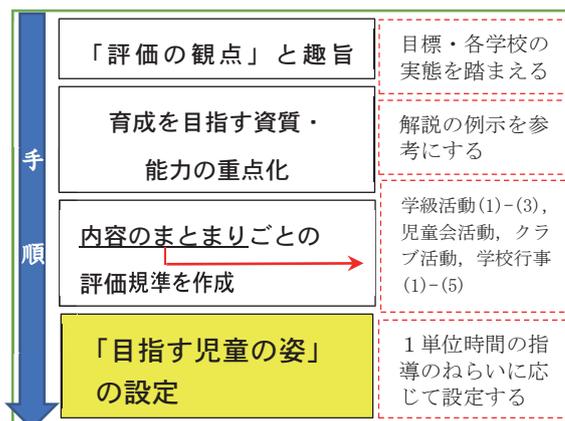
友達の発表について、よいところを具体的に記述している。学んだことを、自分の生活に生かそうとしている。

# 一人一人のよさを評価して 児童のより深い意思決定を促す

## POINT 1 各学校の実態を踏まえた「目指す児童の姿」を設定する

特別活動の評価において最も大切なのは、児童の将来の自己実現に向けて、一人一人のよさや可能性を伸ばしていくことです。そのためには、評価の観点及び評価規準を具体的に設定した上で、一連の学習過程における児童の努力や意欲を積極的に認めたり、児童のよさを多面的・総合的に評価したりすることが重要です。

特に1単位時間の授業においては、内容のまとまりごとの評価規準を踏まえ、指導のねらいに応じた「**目指す児童の姿**」を設定し、活動において表出された児童の姿を通じた見取りを行います。

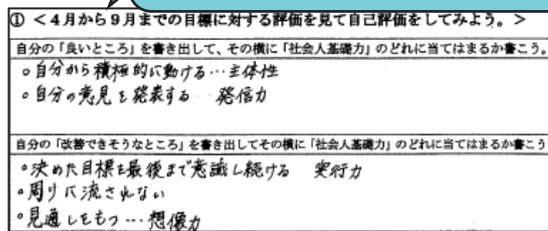


▲「目指す児童の姿」設定の手順

この学校では、「1年間のあしあと」をポートフォリオとして残しています。活動への見通しをもたせる場面で、それを活用した自己評価を取り入れ、より主体的な学びにつなげています。

## POINT 2 児童の自己評価への意識を高める

特別活動において育成を目指す資質・能力は、学級・学校生活における身近な問題について、児童自らが集団活動を通して自主的・実践的に学ぶことを通して初めて身に付くものです。そこで、児童が自己の活動に見通しをもって取り組んだり、活動を振り返って新たな目標や課題の改善につなげたりすることができるように、適切に**自己評価**の学習活動を取り入れていきましょう。教師の見取りとあわせて活用することで、児童理解の深まりとともに、児童の活動意欲の向上や資質・能力の涵養にもつながります。授業において自己評価の活動を進める際には、次のような工夫が考えられます。



- ・1単位時間の指導内容に関連したポートフォリオ（キャリア・パスポートを含む）を、自己評価に活用する。
- ・集団の一員としての自分のよさや課題について認識を深めるために、友達との相互評価を行う。

## POINT 3 児童の意思決定に対話的にかかわる

特に学級活動（2）（3）においては、児童自身が学校生活への適応や自己実現に向けて主体的に課題を捉え、個人の意思決定につなげることが大切です。そのような学習過程において、教師は一人一人の児童に**対話的にかかわり**、児童自身が自己のもつよさや可能性について発展的に考え、自己実現につながる意思決定ができるように支援します。そのためには次のような工夫が考えられます。

- ・事前アンケートやポートフォリオを活用し、一人一人の題材に対する考えや願いを把握する。
- ・十分満足できる活動の状況を「目指す児童の姿」として具体的に想定し、支援につなげる。

## 学習評価に関して

【再確認】 新教育課程説明会等で周知しています。

### ○「観点別学習状況」

学習指導要領の各教科の目標の実現状況を「観点別学習状況」で評価する。

3観点 = 「知識・技能」 「思考・判断・表現」 「主体的に学習に取り組む態度」

目標を3観点で評価する。  
中学や高校にもつながる。

### ○「評定」

「観点別学習評価」の評価の結果を総括する。

学校や学年で共通理解が必要。

### ○「評価方法」

「思考・判断・表現」の評価では、ペーパーテストのみならず、論述、レポート、発表、話し合いなど様々な評価方法を工夫する。

どのように評価するか計画を。

\*評価に関して、児童生徒、保護者の理解を図る。

新しい評価の周知を。

【入門】 確実に押さえていただきたいことが簡潔にまとめられています。



### ○「学習評価の在り方ハンドブック」(小・中学校編)



- ・学習評価の基本的な考え方
- ・学習評価の基本構造
- ・特別の教科 道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動の評価について
- ・観点別学習状況の評価について
- ・学習評価の充実
- ・Q&A — 先生方の質問にお答えします —

### ○「平成 29・30 年改訂の学習指導要領下における学習評価に関する Q&A」

【基本】 もう少し詳しく知りたい先生方にお読みいただきたい資料です。

### ○改善等通知：「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）」

平成 31 年 3 月 29 日 初等中等教育局長

- ・学習評価を行うに当たっての配慮事項
- ・指導要録に記載する事項 等



### ○報告：「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」

平成 31 年 1 月 21 日 中央教育審議会 初等中等教育分科会 教育課程部会

- ・学習評価の基本的な考え方
- ・具体的な改善の方向性 等

### ○答申：「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」

平成 28 年 12 月 21 日 中央教育審議会

令和元年度 教育課程研究委員会 委員一覧

部会・所属	氏名
<b>国語</b>	
都留市立禾生第二小学校	木崎 綾
中央市立玉穂南小学校	落合 祥平
南アルプス市立白根飯野小学校	市川 怜奈
甲府市立上条中学校	平井 規夫
義務教育課	望月 陵 小林 知子

部会・所属	氏名
<b>社会</b>	
南アルプス市立櫛形北小学校	空閑 健二
甲府市立東小学校	大勝 佑介
上野原市立上野原小学校	藤本 裕貴
都留市立都留第二中学校	山口 大
義務教育課	植松 聖人 田邊 靖博

部会・所属	氏名
<b>算数</b>	
甲府市立玉諸小学校	三科 由梨
富士川町立増穂小学校	小野田 瑞紀
笛吹市立石和西小学校	矢崎 登志人
笛吹市立一宮中学校	天野 正博
義務教育課	岡里 真実 櫻井 順矢

部会・所属	氏名
<b>理科</b>	
韮崎市立韮崎北西小学校	金丸 永
山梨市立加納岩小学校	雨宮 正倫
甲斐市立竜王東小学校	安孫子 悠生
富士吉田市立吉田中学校	京島 健一
義務教育課	鷹野 薫 中村 健太

部会・所属	氏名
<b>生活</b>	
都留市立谷村第二小学校	前田 香織
都留市立谷村第一小学校	志村 潤子
市川三郷町立市川小学校	新井 飛鳥
市川三郷町立上野小学校	平岩 佐知子
義務教育課	池川 穂波

部会・所属	氏名
<b>音楽</b>	
都留市立東桂小学校	葛谷 有芸子
山梨市立加納岩小学校	平井 祥子
富士吉田市立吉田小学校	倉田 友紀
富士吉田市立吉田中学校	小林 紘子
総合教育センター	鶴田 心

部会・所属	氏名
<b>図画工作</b>	
甲府市立山城小学校	井澤 映里子
甲斐市立竜王南小学校	藤代 麻衣子
甲州市立塩山南小学校	市川 安紀
笛吹市立浅川中学校	高野 麻衣子
義務教育課	塚原 英樹

部会・所属	氏名
<b>体育</b>	
南アルプス市立小笠原小学校	前島 真美
北杜市立須玉小学校	山田 照吾
甲府市立朝日小学校	横田 はつき
山梨市立笛川中学校	武藤 拓馬
スポーツ健康課	山本 晃司 桐原 洋

部会・所属	氏名
<b>家庭</b>	
大月市立七保小学校	内藤 照美
甲府市立大国小学校	中込 裕子
甲斐市立竜王南小学校	中込 景子
大月市立大月東中学校	吉村 悠希
総合教育センター	榛原 砂穂理

部会・所属	氏名
<b>外国語活動</b>	
富士吉田市立下吉田第二小学校	依田 和也
南アルプス市立落合小学校	内田 拓
笛吹市立御坂西小学校	小澤 宏成
甲府市立南西中学校	西岡 妙子
義務教育課	早川 優子 桑畑 秀子

部会・所属	氏名
<b>道徳</b>	
韮崎市立韮崎小学校	佐藤 岳人
甲府市立甲運小学校	端場 恵子
山梨市立笛川小学校	向山 潤
甲州市立勝沼中学校	雨宮 光平
義務教育課	小尾 綾

部会・所属	氏名
<b>特別活動</b>	
富士河口湖町立船津小学校	佐藤 拓
甲府市立大国小学校	樋川 諒
北杜市立長坂中学校	志村 伊代
義務教育課	山本 撰

部会・所属	氏名
<b>総合的な学習の時間</b>	
富士川町立増穂小学校	平岩 史行
北杜市立高根西小学校	清水 一寛
山梨市立山梨北中学校	廣瀬 剛
総合教育センター	小野 圭

部会・所属	氏名
<b>事務局</b>	
義務教育指導監	齊藤 功
課長補佐	三澤 明生
主幹・指導主事	望月 陵
主査・指導主事	櫻井 順矢



令和元年度  
教育課程指導資料  
(小学校)